

水稻新品種「ちくし赤糯22号」の特性

誌名	九州農業研究
ISSN	04511581
著者	松江, 勇次 浜地, 勇次 尾形, 武文 西山, 壽 原田, 皓二 住吉, 強 今林, 惣一郎 吉野, 稔
巻/号	58号
掲載ページ	p. 2-2
発行年月	1996年5月

水稻新品種「ちくし赤糯22号」の特性

松江勇次・浜地勇次・尾形武文・西山 壽・原田皓二・住吉 強・
今林惣一郎・吉野 稔 (福岡県農業総合試験場)

Yuji MATSUE, Yuji HAMACHI, Takefumi OGATA, Hisashi NISHIYAMA, Koji HARADA, Tsuyoshi SUMIYOSHI, Souichirou
IMABAYASHI and Minoru YOSHINO : Agronomic Characters
of A Red Kerneled New Rice Cultivar "Chikushiakamochi 22"

最近、米に対する消費者ニーズの多様化や嗜好性の変化により、新しい形質に対する要望が数多くだされている。こうしたなかで赤米は地域特産物として注目され、産地化が試みられているが、在来種として存在する赤米品種は耐倒伏性、収量性、脱粒性および休眠性等の改良がほとんど加えられておらず、特に栽培面では問題点が多い。

そこで、福岡県農業総合試験場では1995年に在来赤米種の欠点を改良し、赤米としては、栽培特性が優れる新品種「ちくし赤糯22号」を育成した。ここでは、「ちくし赤糯22号」の特性を中心に報告する。

1. 来歴および育成経過

「ちくし赤糯22号」は、福岡県農業総合試験場において強稈、休眠性が短い、赤米の糯品種の育成を目標に、中生の強稈、休眠性が短い糯品種の「サイワイモチ」を母とし、赤米の粳品種の「対馬在来」を父として1988年に交配された組合せに由来する。

2. 特性の概要

1) 形態的特性：稈長は「サイワイモチ」より20cm程度長く、対馬在来より20cm程度短い。穂長は「サイワイモチ」より長く、穂数は「サイワイモチ」と同程度の中間型である(第1表)。芒は長く、多い。芒色、ふ先色、穎色は穂揃期では赤色を呈し、成熟期では赤褐色となる。脱粒性は“難”である。

2) 生態的特性：出穂期、成熟期は「サイワイモチ」より遅い“晩生の早”に属する糯種である(第1表)。穂発芽性は“難”である。耐倒伏性は「サイワイモチ」より弱く、「対馬在来」より強い“やや弱”である。休眠性は「対馬在来」より短い(第2表)。いもち病抵抗性遺伝子型は“Pi-ta², Pi-a”を持つと推定される。白葉枯病抵抗性は「サイワイモチ」よりやや弱い“弱”である。収量性は「サイワイモチ」より2割程度劣るが、「対馬在来」より優れる(第1表)。玄米千粒重は「サイワイモチ」より2g程度軽い。

3) もち質とアミログラム特性：90% 搗精後の生もちの食味は「サイワイモチ」より粘りは劣るが、味はやや良い。食味総合評価は、「サイワイモチ」と同程度である(第3表)。生もちの色は淡黄ピンク色(日本園芸植物標準色票)を呈する。もち質と関係のあるアミログラム特性は糊化開始温度、最高粘度およびブレイクダウンとも「サイワイモチ」より優れ、もち質が良い「ハクトモチ」と同程度である(第4表)。

3. 栽培上の注意

耐倒伏性がやや弱いのので適量施肥に留意するとともに、他の粳、糯品種への混入を避ける。

第2表 「ちくし赤糯22号」の穂発芽性、休眠性と耐病性

品 種 名	穂発芽性	休眠性	いもち病推定 遺伝子型	白葉枯病
ちくし赤糯22号	難	中	Pi-ta ² , Pi-a	弱
サイワイモチ	やや易	短	Pi-ta ² , Pi-a	やや弱
対馬在来	極難	長	+	弱

第3表 「ちくし赤糯22号」の生もち食味評価

品 種 名	搗精歩合 (%)	食 味 評 価		
		総合	味	粘り
ちくし赤糯22号	89.8	-0.04	0.31	-1.06

注) 平成6年産、サイワイモチを基準米とした

第4表 「ちくし赤糯22号」のアミログラム特性

品 種 名	糊化開始 温度 (°C)	最高粘度 (B.U.)	ブレイクダウン (B.U.)
ちくし赤糯22号	69.5	919	803
サイワイモチ	68.5	860	767
ハクトモチ	68.0	915	793

注) 平成6年産、ビスコグラフにより5%硫酸銅水溶液450mlで測定

第1表 「ちくし赤糯22号」の生育、収量特性

品 種 名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/m ²)	耐 倒 伏 性	草 型	精玄米重 (kg/a)	同 左 比率(%)	千粒重 (g)
ちくし赤糯22号	9.5	10.31	90	18.1	422	やや弱	中間型	43.6	83	19.3
サイワイモチ	9.4	10.25	69	16.9	447	やや強	穂数型	52.7	100	21.5
対馬在来	9.10	11.7	109	21.5	399	弱	穂重型	32.2	63	20.2

注) 福岡県農業総合試験場、普通期・標肥栽培における1993年～1994年の2年間の平均値で示した(以下第2表も同じ)